

平成31年2月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

平成31年1月 マンスリーレポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

| | 全店 | | | 既存店 | |
|-------|---------------|---------------|-----------------|---------------|---------------|
| | 売上高 | 構成比(前月) | 前年同月比(前月) | 売上高 | 前年同月比(前月) |
| 総 額 | 56,641,231 万円 | 100.0% | 99.2% (99.8%) | 54,807,902 万円 | 97.8% (98.6%) |
| 食 料 品 | 47,988,657 万円 | 84.7% (84.6%) | 99.3% (100.0%) | 46,370,993 万円 | 97.8% (98.6%) |
| 農 産 | 7,212,462 万円 | 12.7% (12.0%) | 94.8% (95.4%) | 6,971,961 万円 | 93.4% (94.2%) |
| 水 産 | 4,660,727 万円 | 8.2% (8.8%) | 100.4% (100.4%) | 4,511,288 万円 | 99.1% (99.1%) |
| 畜 産 | 6,324,315 万円 | 11.2% (10.9%) | 99.7% (100.5%) | 6,092,270 万円 | 98.0% (99.0%) |
| 惣 菜 | 5,689,233 万円 | 10.0% (9.7%) | 101.4% (101.6%) | 5,482,552 万円 | 99.9% (99.9%) |
| 日配食品 | 10,613,668 万円 | 18.7% (18.3%) | 99.2% (100.2%) | 10,254,873 万円 | 97.7% (98.8%) |
| 加工食品 | 13,488,252 万円 | 23.8% (24.9%) | 100.4% (101.1%) | 13,058,050 万円 | 99.1% (99.9%) |
| 生活関連 | 3,492,081 万円 | 6.2% (6.3%) | 99.3% (98.7%) | 3,420,503 万円 | 97.9% (98.3%) |
| 衣 料 品 | 1,709,046 万円 | 3.0% (2.8%) | 95.8% (96.2%) | 1,677,990 万円 | 96.0% (96.3%) |
| そ の 他 | 3,451,446 万円 | 6.1% (6.2%) | 100.0% (100.8%) | 3,338,416 万円 | 98.2% (99.2%) |

② 数 値

| | | | |
|--------|----------------------------|-------|-----------|
| 全店総売上高 | 56,641,231 万円 | 店舗数 | 4,758 店舗 |
| 総売場面積 | 9,653,323.9 m ² | 総従業員数 | 257,311 人 |

| | | | |
|-------------------------|------------------|-----------|------------------------|
| 店舗平均月商 | 11,904.4 万円 | 平均客単価 | 1,947.9円 (99.0%) |
| 月間m ² 売上(前月) | 5.9 万円 (7.0万円) | 平均店舗面積 | 2,028.9 m ² |
| 月間坪売上(前月) | 19.4 万円 (23.1万円) | パート比率(前月) | 77.7% (77.3%) |

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 1月の天候について、東日本と西日本および沖縄・奄美地方では気温が高かった。降水量は、北日本と東日本の太平洋側および西日本の日本海側ではかなり少なく、沖縄地方では多かった
- ・ 生鮮品の相場状況について、青果では、「白菜」や「大根」「キャベツ」といった大型野菜を中心に前年比で大幅な安値が続いた。水産物は、入荷量が前年と比べ減少したため、卸売平均価格は高値で推移した。畜産物では国産の豚肉と鶏肉が安値で推移した
- ・ 前年同月と比較して木曜日が1回多く、月曜日が1回少ない曜日廻りであった

《 商品動向 》

・ 農産

- ・ 気温環境により、「長ねぎ」などの鍋野菜が不調であった
- ・ 野菜は前年比で大幅な相場安が続いたため、全体における客単価下落の要因となった。その中でも特に「白菜」や「大根」「キャベツ」など大型野菜の下落幅が大きく、売上は不調であった
- ・ 前年好調であった「カット野菜」や「もやし」が不調であった
- ・ 「スナップエンドウ」など豆類が好調であった
- ・ テレビ番組で紹介された影響により「舞茸」が引き続き好調であった
- ・ 国産果実では「みかん」や柑橘類、輸入果実では「アボカド」が好調であった一方、「いちご」や「りんご」は好不調が分かれる結果となった

・ 水産

- ・ 気温環境により、「タラ」や「牡蠣」などの鍋物商材が不調であった
- ・ 刺身などの生食関連が好調となった。特に「まぐろ」の動きが良く、年始も好調を維持した
- ・ 「ぶり」は好不調が分かれる結果となった
- ・ 「かに」は概ね好調となった一方、「えび」は好不調が分かれる結果となった
- ・ 水産製造の「寿司」が好調であったとのコメントが多く見られた

・ 畜産

- ・ 気温環境により、各畜種ともに鍋物商材が不調であった
- ・ 「牛肉」はステーキや焼肉など焼材が概ね好調であった一方、「豚肉」や「鶏肉」は相場安による商品単価の下落により、好不調が分かれる結果となった

・ 惣菜

- ・ 「握り寿司」や「オードブル」などハレの日需要の商品が好調であった
- ・ 「タラの芽」や「菜の花」など、春を先取りした素材の商品が好調であった

- ・ 日配・加工食品

- ・ 気温環境により、「豆腐」「こんにゃく」「チルド麺」「鍋つゆ」などの鍋物商材や、「スープ」「カレー・シチュー」などホット商材が不調となった一方、日配・加工食品ともに飲料が好調であった
- ・ 野菜価格の下落により、昨年好調であった「冷凍野菜」や「野菜飲料」が不調であった
- ・ テレビ番組で紹介された影響により、日配品では「納豆」「梅干し」「キムチ」が、加工食品では「オリーブ油」「アマニ油」などの食用油や、「サバ缶」を中心とした缶詰、その他「酢」が好調であった
- ・ インフルエンザの流行により「のど飴」が好調であった一方、「機能性ヨーグルト」や「乳酸菌飲料」は不調であったとのコメントが多く見られた
- ・ 酒は、「ウイスキー」「チューハイ」が好調であった一方、「焼酎」「清酒」の動きが悪かった

- ・ 初売りのセール内容および結果について

- ・ 年始の営業開始日について、企業の働き方改革の1つとして、今年は「元旦営業の中止」や「3日から営業」といった動きが見られた
- ・ 初売りのセール内容については、「福袋」や「福箱」の販売が多く、その他、「詰め放題」や「ご当地フェア」など催事性がある企画が多く見られた。ご馳走訴求は「握り寿司」を中心に、「刺身」「すき焼き」など、実績は概ね良好であった

以 上